

## Abstract

核セキュリティ・サミットの成果と残された課題

野呂 尚子（日本原子力研究開発機構 核不拡散・核セキュリティ総合支援センター）

オバマ米大統領は 2009 年 4 月にプラハで行った「核兵器のない世界」実現を提唱した演説において、「核セキュリティ・サミット」の開催を提案し、翌 2010 年 4 月に第 1 回核セキュリティ・サミットがワシントンにて開催された。これを契機に、国際社会の核セキュリティ対策への取り組みは急速に勢いづき、初回から 2016 年の第 4 回核セキュリティ・サミットまでの 6 年の間に、核物質の削減、セキュリティ規制の強化、国際条約の批准、人材育成及び技術開発等、様々な分野で大きな成果をもたらされた。第 4 回目をもって現行の核セキュリティ・サミットは終了し、今後は国際原子力機関 (IAEA) 等を中心として、国、地域及び世界レベルで対策を継続していくこととなるが、残された課題は多い。本稿では、核セキュリティ・サミットによって達成された成果をとりあげサミットの意義を論じるとともに、2016 年のサミット終了後に残された核セキュリティの課題を明らかにする。

『国際安全保障』第 44 巻第 2 号（2016 年 9 月）14—31 ページ。